

重要海域の見直しについて

1 重要海域の選定要件の見直し

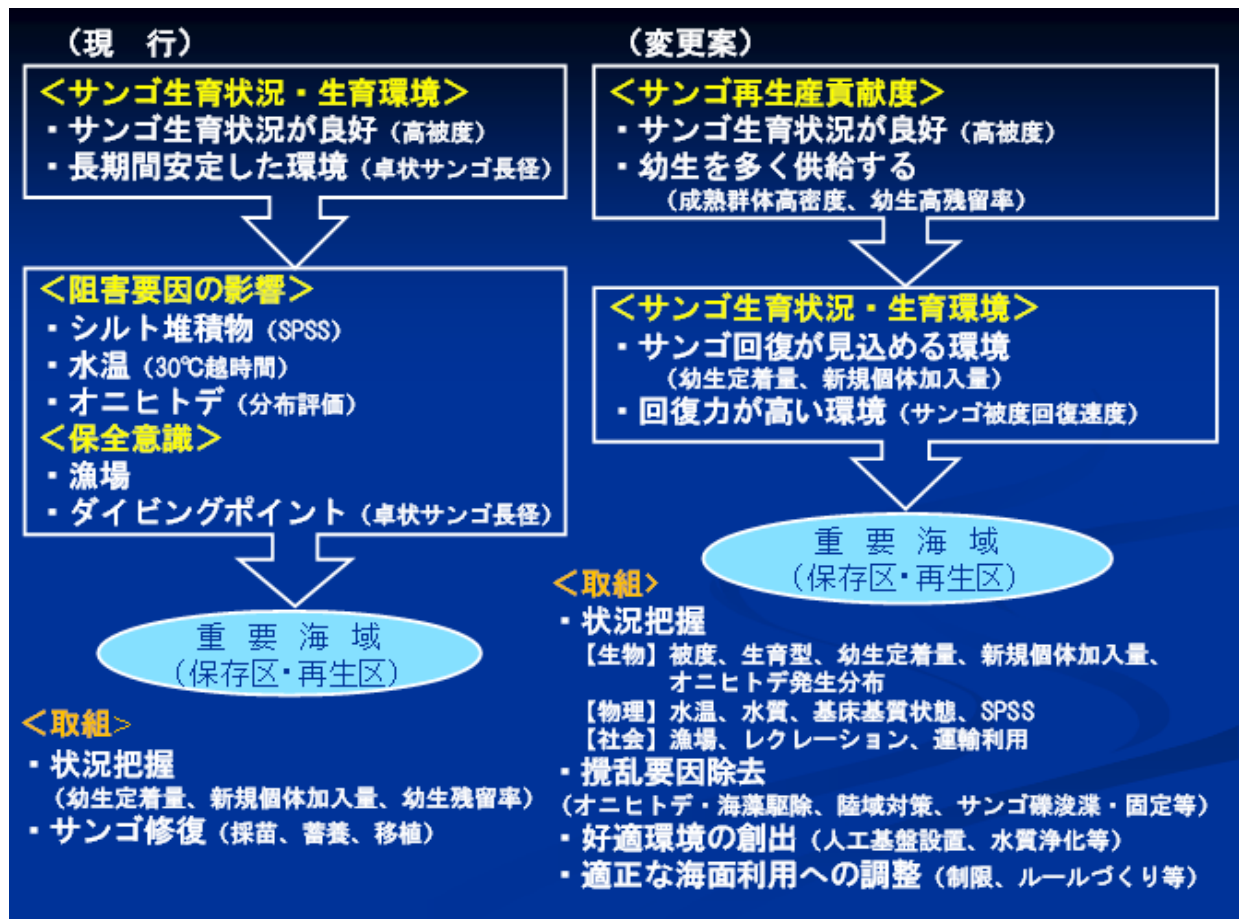
(1) 選定要件の変更

石西礁湖のサンゴ礁生態系が著しく劣化し危機的状況にあるため、サンゴの再生産に寄与する海域の保全再生を優先に取り組むよう、重要海域の選定要件を変更することとする。

(現 行) サンゴ群集の生息状況、生育環境、取り巻く社会状況を選定要件としている。

(変更案) サンゴ群集の生息状況のみを選定要件とする。

現行のその他要件は取組方針の指標とする。



【保存区】

① i) または ii) に該当する海域であって②または③のいずれかに該当する海域とする。

<重要海域の選定手順（変更案）>

要件	
①	サンゴ再生産に寄与する海域
	i) サンゴ幼生を供給する量が多い海域
	ii) 石西礁湖内幼生残留率が高い海域



アで評価高に該当し、
イ又はウ評価高に該当する海域

指標	相対評価値
ア サンゴ被度	50%以上
イ 成熟群体相対密度	50群体数/分以上
ウ 石西礁湖内幼生残留率	50%以上

※基本的には、相対評価値は目安であって、評価値前後を示す海域の場合、総合的に評価していくこととする。

要件	
②	サンゴ群集の優占種の安定的な幼生供給を受けている海域
③	サンゴ群集の回復速度が速い海域



エ、オ、力のいずれかで、
評価高に該当する海域

指標	相対評価値
エ 幼生定着量	10個/100cm ² 以上
オ 新規加入個体数	5群体/m ² 以上
カ サンゴ被度増減	10%/年

↑ 過去10年間のうち最も低いサンゴ被度の状態から3年後のサンゴ被度増減の年あたりの回復速度

保存区として選定

取組方
生育状況・環境モニタリング



項目	
生	サンゴ被度、生育型、成熟群体相対密度、幼生定着量、新規加入個体数、多様度、オニヒトデ発生
物	水温、水質、SPSS
社	漁業、レクリエーション、運輸利用状況

- 攪乱要因の除去・軽減(オニヒトデ駆除、海藻除去、陸域対策、サンゴ礫浚渫・固定等)
- 適正な海面利用への調整(利用制限・ルールづくり等)

【再生区】

① i) 及び ii) に該当する海域であって②又は③のいずれかに該当する海域とする。

<重要海域の選定手順（変更案）>

要 件	
サンゴ再生産に寄与する海域	
①	i) サンゴ幼生を供給する量が多かった海域
	ii) 石西礁湖内幼生残留率が高い海域

指 標		相対評価値
ア	サンゴ被度	50%以上
イ	成熟群体相対密度	50群体数/分
ウ	石西礁湖内幼生残留率	50%以上



過去10年間に於いて、アで連続3年以上の評価高の状態があった、
またはイで評価高があった海域のうち、ウで評価高に該当する海域

要 件	
②	サンゴ群集の優占種の 安定的な幼生供給がされていた海域
③	サンゴ群集の回復速度が速かった海域

指 標		相対評価値
エ	幼生定着量	10個/100cm ² 以上
オ	新規加入個体数	5群体/m ² 以上
カ	サンゴ被度増減	10%/年



過去10年間に於いて
エ、オ、カのいずれかが評価高の状態であった海域

再生区として選定

取 組 方
生育状況・環境モニタリング

項 目	
生	サンゴ被度、生育型、成熟群体相対密度、幼生定着量、新規加入個体数、多様度、オニヒトデ発生
物	水温、水質、SPSS、基質状況
社	漁業、レクリエーション、運輸利用状況



- サンゴ群集の修復(有性生殖法; 定着率向上、蓄養環境整備、移植後生残率向上等)
- 攪乱要因の除去・軽減(オニヒトデ駆除、海藻除去、陸域対策、サンゴ礫浚渫・固定等)
- 好適環境の創出(人工基盤整備、水質浄化等)
- 適正な海面利用への調整(利用制限・ルールづくり等)

2 重要海域の取組方針の見直し

サンゴ群集の保全再生を図るためには、重要海域設定時のサンゴ群集生育状況・生育環境を基準とし、その状況が大きく変化しない、又は改善されるよう積極的な展開を図っていくことが必要である。

【保存区】

(現 行) 海域の自然環境について調査を実施するとともに、海面利用に関するルール設定等を行うことにより、その状態を保全する。

(変更案) 海域の自然環境について調査を実施するとともに、海面利用に関するルール設定等を行うこと、必要に応じて攪乱要因の除去等することにより、その状態を保全する。

【再生区】

(現 行) 回復阻害要因を明らかにし、当該要因の除去しつつ、サンゴ群集修復を施していく。

(変更案) 回復阻害要因を明らかにし、当該要因の除去しつつ、サンゴ群集修復、好適生息環境の創出等により、海域ごとに適した再生手法を施していく。